

「発音絵記号」とは

© 2017.12.24 : 文字と音の連合

平成 26 年秋に、英語の読みが苦手な生徒さんへの指導で、強みの認知特性を生かすアプローチとして閃いたのが、「発音絵記号」です。

「発音絵記号」による指導は、それまで英語の学習を諦めていた生徒さんが、「おれも英語が読めるようになるかも！」と希望の芽が再度噴き出すきっかけになるものだと、これまでの指導を通して確信しています。そして、今の私が自信を持って指導できるメソッドです。この「発音絵記号」を思いつくことができ、本当にうれしいです。

アブクドウ読みとは

英単語のなかでは、**b** は[ビー]ではなく[ブ]、**g** は[ジー]ではなく[グ]という音になります。英語の音素です。

abcd の並びは[アブクドウ]という音になるので、「アブクドウ読み」という言い方をここでは使います。

「アブクドウ読み」は、通称の言い方です。一般的には、アルファベットの「音読み」と言うようです。関西大学の田尻吾郎先生は、「仕事読み」という表現をしておられます。

末の子が中1のときに、「アルファベットの歌」を替え歌にして、「アブクドエフグ ㊦」と歌いながら覚える方法を授業で習っており、私は、「アブクドウ読み」を知りました。平成 20 年のことです。

私が出会った、英語の読み書きに苦戦している生徒さんの多くが、「アブクドウ読み」の獲得につまずいています。つまり、文字と音の連合(デコーディング)に弱さがあります。

それもそうです。中学 1 年の英語指導では、1 学期の中頃、さっと指導が終わってしまいます。私をはじめ、普通の学び方(学校の授業)で英語に苦労しなかったタイプの方は、いろいろな英単語を勉強する過程で自然に(継次処理的に)b は[ブ]という音になるんだ、g は[グ]という音になるんだということを習得するのだと思います。子供の時から、英語が得意だったから英語教師になった人には、「アブクドウ読み」がどうして獲得できないのか、理解できないのではないかと思います。

しかし、そこにつまずいてしまう生徒さんがいるのです。アセスメントをすると、次のような共通点があることが多いです。

-
- 同時処理のほうが継次処理よりも有意である。

- 視覚的な有意味刺激による入力が得意である。
 - ひらがな拗音の文字と音の連合に苦手さが残っている。(ブレンディングの苦手さがある)
-

「発音絵記号」を用いる以前の指導法

平成 21 年度から中学校の通級を担当することになり、フォニックスの指導法を参考にしながら、文字と音の連合(デコーディング)の指導を工夫しました。

わが子が学習していた「アブクドゥ読み」の替え歌の資料をもらいました。その歌ですっと覚えられた生徒さんもいました。

でも、歌には乗ってこない生徒さんやなかなか覚えられないという生徒さんもいました。そのような生徒さんに、フラッシュカード式にして何度も何度も繰り返して練習していました。覚えるまでに何か月もかかった生徒さんもいました。私も、この子は、覚えることは無理なんだろうかと諦めそうになりました。それ以上に、何か月も同じ練習を繰り返していることに、生徒さん自身が、うんざりしたり、自信を無くしていたりしたことでしょう。非効率的な方法で何か月もやっていたことに申し訳ない気がします。

フォニックスの市販教材もいくつか検討しました。しかし、i の音を「igloo のイ」で紹介してある教材を見て、「igloo」では、子どもたちに馴染みのない言葉で、英語 LD の子どもたちにとっては使えないと思いました。そのような視点で、市販のフォニックス教材をチェックしてみると、ほとんどの市販教材が音の手がかりに英単語を用いています。LD の子どもたちは、どうしても英単語の語彙が少ないので、この英単語では手がかりにならないと思うものが含まれています。

「発音絵記号」とは、

「発音絵記号」を使うと、アルファベット 26 文字全部の「アブクド読み」をわずか 30 分程度で、子どもたちは覚えてしまいます。「英語は、どうせ読めん！」と諦めていた子どもさん自身も、驚いた表情をします。

具体物の絵(視覚的な有意味刺激)をヒントにして、その言葉の語頭音から音を想起しやすいように工夫したものです。用いる言葉は、個々の子どもさんが既に獲得している言葉を使います。

そのため、英単語に限らず、日本語も用います。

これは、「発音絵記号」による指導をひらめくきっかけになった、最初の記念すべき「発音絵記号」です。



「発音絵記号」作成時の留意点

- 視覚的有意味刺激の強みを生かして、具体物の絵を用いる。
- 音がイメージしやすいよう、個々の子どもさんが獲得している語彙やイメージに合わせる。
- できるだけ絵の中に文字を取り込み、絵とともに文字の形を想起しやすいようにする。
- アーレンシンドロームなど、個々の子どもさんの視覚機能に配慮し、見やすくする。

「発音絵記号」での指導の前に、子どもさんと、どんな具体物を使うと音がイメージしやすいか・どんなイラストがいいかを相談し、個々の子どもさん用の「発音絵記号」を決めていく過程が、一人ひとりの子どもさんのレディネスや持ち味を尊重するためにとっても大切な時間です。

[アイ]という音をイメージするために、iphone の画像が、昨年度までの「発音絵記号」でしたが、今年は「スマホの[ス]としか、イメージできません。」という子どもさんにも出会い、[アイ]という音をイメージするために、その子と相談して、その子が納得する「発音絵記号」が別に誕生しました。

このように、今年も、その子に合わせた新しい「発音絵記号」が生まれています。私が思いつかない物が子どもさんから出てくることもあります。

「発音絵記号」は、小学生のローマ字指導にも有効です。

この記事を共有する

TAGS [アブクド読み、発音絵記号デコーディング文字と音の連合](#)